

町政をたず



問

観測史上最大を記録した豪雨 甚大な被害への町の対応は？

答

早期の本格復旧、県と連携し取り組む。
町民生活への悪影響を最小限に対応する。

いわね たまき
岩根 環 議員



質問者の動画が
視聴できます。

豪雨による災害対応について

問 岩根議員

8月3日に最大1時間降水量が91・5ミリ、9日から10日の24時間雨量が325ミリと観測史上最大を記録した豪雨で、土砂崩れ、町道の陥没、家屋の全壊、2つの集落の孤立等、全町にわたる甚大な被害に対する町の対応は、
①追良瀬、松原線の道路の復旧はいつ頃か。
長慶平地区の電気の復旧は、
②復旧のための費用、予算は。
③9日に出した深浦町全域の避難指示で、どれだけの住民が避難したのか。
各避難所への食料、飲物は届けることは出来たのか。
④田野沢では住家3棟の全壊があった。これは現在進めている風力発電工事の影響はなかったのか。

答 町長

①8月21日に三村県知事が町道松原1号線の被災箇所を視察し、県が、追良瀬川の復旧工事と併せて、町道の復旧工事も進めると表明した。知事は、松原の住民が不自由な生活を送っていることにも触れ、速やかに応急復旧を行うよう、県担当者に指示し、早速翌日から県が応急復旧に着手し、

先般、車両通行が可能な状態まで応急復旧が進んでいる。
今後は、早期の本格復旧に向け、県と連携しながら取り組んでいく。
また、被災から停電が続いていた長慶平地区は、8月15日の夜間に東北電力の高圧応急電源車が現地に入り、16日午後には、ほぼ全ての世帯で復旧した。
(次ページに続く)

▶三村県知事が町道松原1号線の被災箇所を視察



▲追良瀬川の増水で崩壊し、車両通行ができなくなった町道松原1号線

町政をただす

②8月3日の大雨では、避難所の開設・運営に要する経費と、被災箇所の緊急応急経費として、800万円を予備費充用で予算措置をした。8月9日の豪雨では、更に被害が拡大し、先の予備費充用分では賄えない経費について、本定例会に緊急対策経費と復旧に向けた被災箇所の調査、測量設計に要する経費、併せて8490万円を予算補正し上程した。今後は、被災箇所の全容把握や本格復旧に莫大な財政負担が生じると想定される。国・県支出金や地方債の活用、財政調整基金などの思い切った投入により、町民生活への悪影響を最小限に抑えるよう対応していく。

③8月9日夜には21か所の避難所を開設し、自主避難を含めて578名の方が避難した。また、各避難所での食料等については、町の備蓄非常食のほか、町内の商店や飲食店等の協力で、おにぎりや飲物を発注して対応した。

更に、県からも、食料等の

支援物資、約1000食分が届いた。

また、自主防災組織として自治会単位で避難所の運営や炊き出しなどを行ったところも複数あった。

④弘前大学発表の調査速報によると、「豪雨により被災住家の山側の斜面が流出し、土砂が流動化して土石流となり、家屋に衝突して倒壊させたものと推定される。」としている。

田野沢地区の広域農道の山側で施工している大型風力発電の設置工事に当たっては、林地開発許可基準等に基づき、土堰堤・土側溝、沈砂池、土砂流出防止柵の防災対策等を講じた上で施工していることから、当該工事との因果関係はないものと認識している。



福祉センターへ避難した住民（関地区）



土石流で全壊した家屋（田野沢地区）

